

市政記者各位

経済観光文化局史跡整備活用課

## 福岡城天守台 発掘調査にかかるお知らせ

福岡市では、国史跡福岡城跡を適切に保存し、歴史的価値を次世代に継承するため、石垣や建造物などの保存・整備を進めています。天守台については、かつての状況を確認するため、令和7年度から発掘調査や石垣の構造調査などを実施しています。

今年度は、下記のとおり発掘調査を開始する予定です。取材及び周知方、どうぞよろしくお願いたします。

### (1) 令和8年度 発掘調査について

下記の期間で、天守台の外側と内側について、発掘調査を実施します。

**調査期間** : 令和8年5月29日(金)～12月末(予定)

### (2) 発掘調査現場の報道公開について

調査開始にあたり、報道の方々へ向けて、令和7年度の発掘調査の成果と令和8年度事業の概要について、下記の通り、ご説明いたします。

**開催日時** : 令和8年5月28日(木) 13時30分～14時15分(予定)

※少雨決行(荒天中止)します。

※報道関係以外の方のご参加はご遠慮ください。

**集合場所** : 福岡城天守台前  
(福岡市中央区城内)

**【集合場所】  
天守台前**





### (3) 天守台への立ち入り制限について

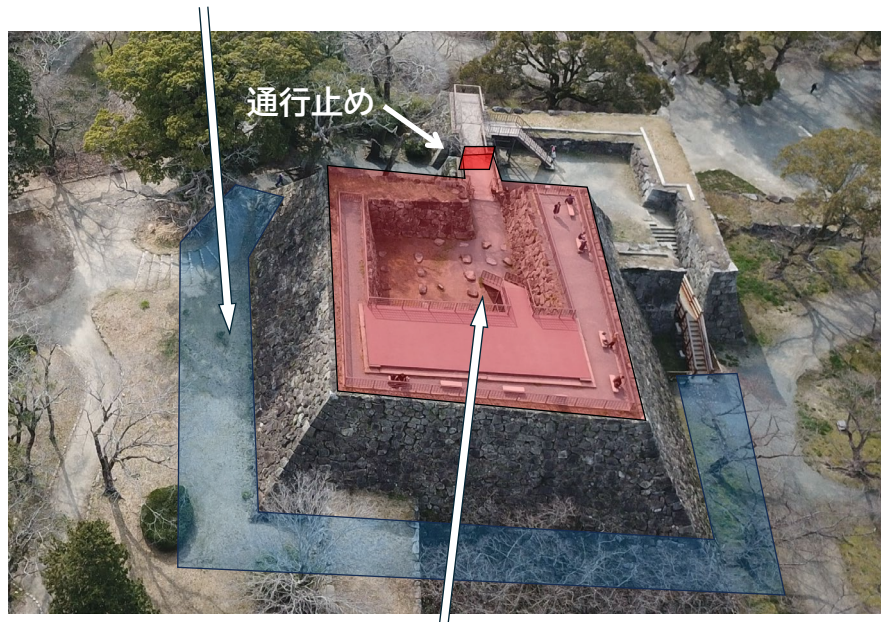
---

現地説明会および発掘調査にともない、事前準備と作業中の安全確保のため、下記のとおり、天守台の内側及び外側で、立ち入りを制限します。

**立ち入り制限の期間** : 令和8年5月26日(火)～12月末(予定)

- 制限の内容** :
- 下図の  — 上記期間中、立ち入ることができません。
  - 下図の  — 上記期間中、発掘調査の進捗に応じて、一部立ち入りを制限します。

発掘調査の進捗に応じて一部立ち入りを制限する範囲



5/26～12月末(予定)の間、立ち入りを制限する範囲

## 《 参考資料 》

### 福岡城について

---

#### 【国史跡 福岡城跡とは】

福岡城は初代藩主黒田長政とその父黒田如水(官兵衛)により、1601(慶長 6)年～1607(慶長 12)年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二ノ丸・三ノ丸で構成されています。城内面積は約41万㎡、濠を含めた総面積は約110万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には47の櫓があったとされ、その他に本丸御殿など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多間櫓(国指定重要文化財)などごく一部です。1957(昭和32)年に国史跡指定を受けています。

#### 【天守台と穴蔵】

天守台とは、天守の土台となる石垣のことで、福岡城の天守台(大天守台)は、上面の大きさが東西約25m、南北約22mの大きさです。天守台の内側は、石垣に囲まれた空間となっており、この空間のことを「穴蔵(あなぐら)」と呼びます。

天守は天守台石垣の上に築かれるため、スムーズな出入りのため、天守台の内側は穴蔵となる場合が多く、ここに天守1階へと上る階段を設けます。穴蔵は建物の一部(地階)であると同時に、建物を支える重要な役割を持っているといえるでしょう。



▲天守台穴蔵

### 発掘調査について

---

今回の発掘調査は、天守台内側(穴蔵部分)と天守台外側(石垣裾部)を対象とします。まず、現況の観察や写真撮影などの作業を行ない、調査前の状態を記録します。

これらの作業が終了した後に、実際に地面を掘る範囲を設定し、掘削を開始します。発掘は人力で行ない、掘り出した遺構や遺物は、発見した位置や状況などについて詳細に記録をとっていきます。掘り上げた土もいったん持ち帰り、ふるいにかけて遺物が含まれていないかを確認します。史跡である福岡城を毀損することがないように、掘り下げは慎重に行ないます。

調査終了後は、埋め戻しを行ない、可能な限り元通りの姿に戻します。



▲昨年度の天守台内側(穴蔵部分)の発掘調査の様子

経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課  
担当：大塚・松尾  
TEL：092-711-4784 (内線3810)  
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp